

国立大学法人等職員採用試験

国立大学法人等は、国立大学法人、大学共同利用機関法人、独立行政法人国立高等専門学校機構、独立行政法人国立青少年教育振興機構で構成されています。

国立大学法人等で働くためには、全国7地区で実施される国立大学法人等職員採用試験に合格する必要があります。[事務系]事務、図書、[技術系]電気、機械、土木、建築、化学、物理、電子・情報、資源工学、農学、林学、生物・生命科学の試験区分からひとつ選んで受験してください。業務ごとの試験区分は以下に紹介するとおりです。

◆技術系の試験区分

施設系	教育・研究支援系		
●電気	●電気	●化学	●農学
●機械	●機械	●物理	●林学
●土木	●土木	●電子・情報	●生物・生命科学
●建築	●建築	●資源工学	

※採用予定がない試験区分については、試験を実施しません。

◆採用試験のフロー



東海・北陸地区国立大学法人等職員採用試験実施委員会 Webサイト

<http://www.sssj.jimu.nagoya-u.ac.jp/>

試験情報、説明会情報など、最新の情報が満載。ぜひアクセスしてみてください!

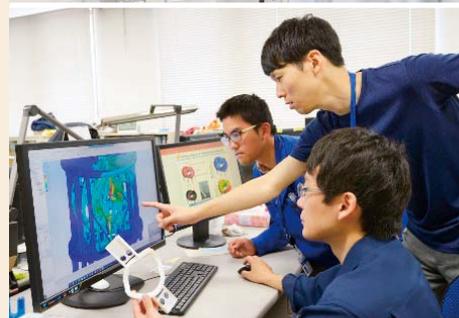
東海・北陸 職員 検索



編集・発行

東海・北陸地区国立大学法人等職員採用試験実施委員会職員採用試験事務室

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学管理部内
TEL: 052-788-6053, 6054



学びの力と地域を育む

東海・北陸地区国立大学法人等

技術系職員

WORK GOOD

国立大学法人等の技術職員は、高度な専門知識と技術力を活かし、 キャンパス環境の整備や学術研究の発展を支えています！

活躍の場

様々な施設(校舎、研究実験棟、病院、図書館、体育館など)やインフラの企画・計画・設計・工事管理・維持管理などの業務に従事し組織を支えています。

施設系技術職員の魅力は、最先端の教育・研究の基盤づくりから施設整備を通じて携われることです。キャンパスの設備計画から建設後の維持管理までトータルで関わることができます。学生や教員、研究者と協働し働くことに、国立大学法人等職員ならではの面白さがあります。



施設系

業務内容

- 計画立案**
 - 整備計画「キャンパスマスタープラン」の策定
 - アクションプラン、マニュアルの作成
- 予算要求**
 - 現地調査、ユーザーヒアリング
 - 関係者と協議・調整し、予算要求書を作成
- 設計・積算**
 - 予算を最大限に活かした基本設計書の作成
 - 設計コンサルタントとの調整
- 工事管理**
 - 工事工程の確認、安全・品質管理
 - 検査の立会い
- 維持管理**
 - 定期点検、定期報告
 - 修繕計画の作成、実施
 - 省エネや経費節減に向けた取組み



先輩技術職員の声

大林 千将

Obayashi Yukimasa

所属：豊橋技術科学大学
施設課 施設整備室 電気係

採用年度：2019年度

試験区分：電気



学内建物の電気工事(新営・改修・修繕工事の設計・積算・施工管理)や電気設備の維持管理保全、省エネルギー対策に携わっています。電気設備の場合、使用者の目につく確率は低ですが、形あるものとして残るためやりがいを感じます。より良いものになるように、施工者や建築・機械の工事を担当する職員と協議検討を重ね、作り上げて行く、魅力的な仕事です。経験を積みながら成長ができる職場なので、一緒に「究め、創り」しましょう。

教育・研究支援系

科学技術の高度化・国際化の中において、基礎的・創造的・先端的な学術研究を技術的に支える仕事です。教育面では、学生の実験実習や安全管理指導業務に従事し、ロボットコンテストなどの地域貢献にも携わることがあります。

専門分野の知識を活かすのみならず、試験区分の枠を超え協力して教育・研究に貢献できる仕事です。専門分野と担当業務が完全に一致している必要はありません。様々な分野を学び業務の幅を広げる意欲のある方を求めています。



- 学生の実験・実習の企画、立案、準備、技術指導
- 実験装置等の開発、設計、製作、運用、保守保全
- 実験データの測定、解析、分析技術の高精度化
- 実験動物・薬物の適正な取扱い
- 情報通信インフラ整備、セキュリティ管理、情報発信



稲垣 茉莉子

Inagaki Mariko

所属：自然科学研究機構
生理学研究所 技術課

採用年度：2019年度

試験区分：農学



基礎研究に関わる仕事に興味があり、誰かが当たり前に行っている環境を整えることに魅力を感じたので志望しました。生理学研究所内のサーバ等の保守管理、内部ネットワークに接続する機器の管理作業などが私の主な仕事です。情報として守るべき「研究データ」はどこまでか?など、研究機関ならではの課題があり面白いです。ユーザーの研究者と話すのは何か問題が起きている時がほとんどですが、わざわざ呼び止めてお礼を言われることもあり有難いです。